

◇編集後記◇

2007年も無事に6号を発刊することができました。10月末までの本年の投稿総数は、英文誌181編、和文誌24編で、このうちそれぞれ118編と21編が査読に回りました。06年通年の英文誌の投稿総数が154編であったことを考えると、大変ありがたいことに大きく投稿数が伸びています。一方で、最終的にリジェクトとなった数は、英文誌92編、和文誌7編でした。時期のずれがあるので正確な数字にはなりません、英文誌の採択率は概ね50%前後です。査読の質を維持するために、多くの皆さまに査読者としてご協力いただいております。英文誌では07年度だけで、編集委員国内30名、海外32名の他に90名の方に査読していただきました。ここに、あらためて御礼申し上げます。

さて、編集委員会にとって今年最大のトピックの一つは、竹下編集委員長のご尽力によって、年初から電子投稿システムが稼働したことです。編集事務局に確認したところ、最近ほぼ全てがオンライン投稿で、郵送はほ

とんどなくなったそうです。また、電子化により、1) 投稿数が著しく増えたこと、2) 査読者への連絡が容易になり、査読者のレスポンスが早くなるなど査読時間が短縮されたこと、3) 投稿者、査読者とも、とくに海外ではE-mailでのやりとりが好まれていること、などの実感があるそうです。一方で、容易に投稿できるせいか、査読の対象とならない論文も多くなっています。

学会の情報発信力として、雑誌の質を高く維持することはきわめて重要であり、そのことを支える基盤の両輪が、査読者と本システムであると感じます。投稿システムは、さまざまな制約がある中での移行であったため、お使いいただいた会員の皆さまは、著者または査読者として様々な感想やご意見をお持ちと存じます。これからも、使い勝手の良いシステムの構築を目指して可能な点から順次改良を加えていきますので、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

(武林 亨)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（独法労働安全衛生総研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利 一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（産業医大）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番